

訪問看護における感染対策マニュアル

安全で質の高いケアを継続するために

制定：2026年7月改訂版

1. 基本的な感染対策

手洗い・手指消毒

訪問前、訪問後、患者のケア中に手洗い・手指消毒を徹底します。アルコールベースの手指消毒剤を使用し、手洗いができる環境がある場合には流水と石鹸でしっかりと手を洗います。

マスクの着用

訪問看護中は常にマスクを着用します。患者が感染症を持っている場合、または訪問者が感染のリスクがある場合は、適切な防護マスクを選びます。

手袋の使用

患者との接触時、特に傷口の処置や排泄介助を行う際には手袋を着用します。手袋は使い捨てとし、使用後は速やかに廃棄します。

2. 訪問前の確認事項

感染症の有無確認

訪問前に患者または家族から、発熱や咳、喉の痛み、呼吸困難などの症状がないか確認します。また、過去に新型コロナウイルス感染症の症例があった場合、医師から指示を仰ぎます。

訪問内容の確認

訪問看護の内容（処置、リハビリ、薬の管理など）を再確認し、必要に応じて追加の感染予防対策（例：N95マスクの使用やガウンの着用など）を準備します。

3. 訪問中の感染対策

換気の実施

患者宅では、可能な限り換気を行います。特に密閉された空間では定期的に換気をし、室内空気を新鮮に保ちます。

個人用防護具（PPE）の使用

患者との接触がある場合、必要に応じてマスク、手袋、ガウンを着用します。感染症の種類によっては、フェイスシールドや防護メガネの使用も検討します。

訪問後の手洗い・消毒

訪問後は、手指の消毒や手洗いを徹底します。また、使用した器具や用品は消毒し、次の患者へ移行する際に感染を広げないようにします。

4. 患者宅での感染対策

患者との距離の確保

可能な限り患者と適切な距離（約1m以上）を確保し、接触を最小限にします。必要なケアのみを行い、過剰な接触を避けます。

清掃と消毒

訪問後、患者宅内の使用した道具や家具（特に手が触れる部分）は消毒します。適切な消毒剤を使用し、目に見える汚れや汗、体液が付着した箇所は特に重点的に清掃します。

5. 訪問後の感染対策

道具や用具の消毒

訪問時に使用した道具や用具（聴診器、血圧計、注射器など）は、訪問後に必ず消毒します。

医療廃棄物の処理

使用済みの手袋、ガーゼ、注射針などの医療廃棄物は、指定の方法で適切に廃棄します。感染症の種類に応じた処理方法を遵守します。

6. 特殊な感染症への対応

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応

- ・ **訪問前に患者の症状確認:** 発熱や咳などの症状がある場合は、訪問を見送るか、医師に相談してから訪問します。
- ・ **高リスク患者への対応:** 感染者や濃厚接触者と接触のあった患者への訪問時は、より強化された感染防護策（N95マスク、ガウン、フェイスシールドの使用など）を実施します。

結核やインフルエンザなど

結核やインフルエンザなど、飛沫感染や空気感染する病気の患者の場合、追加の防護具の使用を検討します（例：N95マスクの使用）。

7. スタッフへの教育と研修

定期的な感染対策研修

訪問看護スタッフには定期的に感染対策に関する教育を実施し、最新のガイドラインに従った対応方法を習得します。

症例ごとの特別研修

特殊な感染症や新たな病原菌に関しては、症例ごとの対応方法を個別に研修します。

8. 感染症発生時の対応

感染が疑われる場合の対応

訪問中に患者が感染症を疑う症状を示した場合、その場で感染対策を強化し、直ちに施設へ報告します。必要に応じて感染症専門医に連絡し、指示を仰ぎます。

スタッフの健康管理

訪問後、スタッフの体調に異常があれば、速やかに医療機関を受診し、感染症の確認と適切な処置を受けるようにします。